vol.344

“馬は馬方、餅は餅屋、情報はマック”
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆2010年7月28日発行ラインナップ◆
・日本ＧＡＰ協会新体制スタート
・農家と消費者の新たな関係作りを目指す“地産マルシェ”
・顔が見える、美味しいりんご作りを目指して

日本GAP協会新体制スタート

去る6月23日、日本ＧＡＰ協会通常総会、理事会が開催され新理事が選出された。メンバーは別表の通りである。農事組合法人和郷園代表理事木内博一氏が新理事長に就任、副理事長にイオン株式会社 アグリカルチャー事業ＰＴリーダー、イオンアグリ創造社長藤井滋生氏と当社社長上杉登に決定し新体制がスタートした（下表ご参照）。

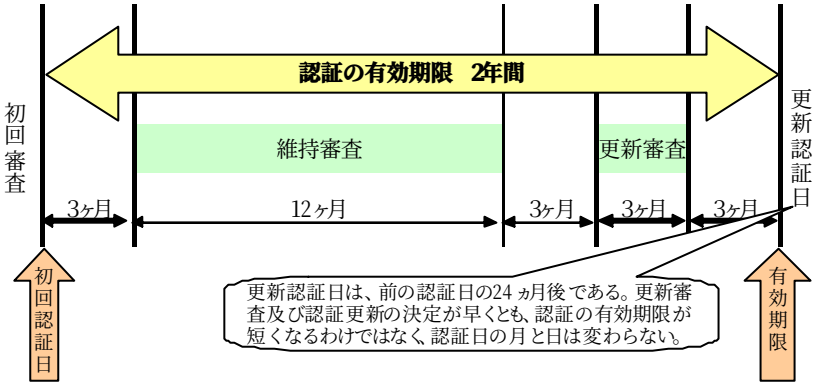
更に７月からは、ＪＧＡＰ青果物2010年版(ＪＧＡＰ農場用管理点と適合規準青果物2010)の審査・認証が開始するが、従来の青果物2.1版も2011年6月30日まで審査・認証は継続される。新しいＪＧＡＰ青果物2010の方向性は、①農林水産省のＧＡＰガイドラインへの対応、②流通ＧＡＰや各社の取引規準との整合性、③GLOBALGAPとの同等性（海外項目を分割した）、④表記を変更（版の呼び方）、⑤組織運営と自己点検を重視した主体性の高い取り組みを目指す、⑥労働安全の管理点を充実、⑦スプラウト、きのこへの対応等である。

審査のタイミングが変わり、土壌診断が必須になる

それから、ＪＧＡＰ運営・審査・認証の規則第2.3版が改版され、総合規則2010によって７月１日より審査・認証が開始される。認証の有効期限は２年間に延びるが、審査のタイミングが変わる。別表の通り更新審査が認証有効期限前３ヶ月までに、そして維持審査が初回審査の３ヶ月後から一年間の間で農産

（次ページへ続く）

≪審査のタイミング≫



ＪＧＡＰ協会　新役員（2010年6月23日発表）

理事長	木内　博一	農事組合法人和郷園／代表理事
副理事長	藤井　滋生	イオン㈱／アグリカルチャー事業PTリーダー
		イオンアグリ創造㈱／代表取締役
副理事長	上杉　登	三菱商事アグリサービス㈱／代表取締役社長、全国肥料商連合会会長
専務理事	武田　泰明	専務理事　事務局長
理事(16名)		
農業生産者・個人・法人・生産者団体の関係者	川森　浩	農事組合法人鈴鹿山麓夢工房／専務理事、社団法人日本農業法人協会／理事
	栗田　洋蔵	(有)育葉産業／代表取締役
	斉藤　一志	農業生産法人いずみ農産／代表取締役、㈱庄内こめ工房／代表取締役、㈱まいすたぁ／代表取締役
	佐塚　高	静岡県経済連（ＪＡ静岡経済連）／茶業部長
	玉造　洋祐	(有)ユニオンファーム／代表取締役
	仲野　隆三	富里市農業協同組合（ＪＡ富里市）／常務理事
	服部　一成	服部果樹園
農産物の買手（小売・中食・外食・若しくは食品メーカー関連団体の関係者）	泉谷　定男	㈱ダイエー／品質管理センター長
	内山　和夫	日本生活協同組合連合会／会員支援本部　産直グループ　グループリーダー
	恵本　芳尚	㈱イトーヨーカ堂／青果部シニアマーチャンダイザー
	大崎　善保	デリカフーズ㈱／取締役
	辻　信之	㈱シージーシージャパン／取締役商品本部副本部長　兼　生鮮日配事業部事業部長
	中井　尚	社団法人日本フードサービス協会／理事兼事務局長
	藤猪　健次郎	㈱ケーアイ・フレッシュアクセス／営業本部本部長代行
	増田　陸奥夫	一般社団法人日本食農連携機構／理事長（元農林中央金庫／代表理事副理事長）
	和田　正江	主婦連合会／副会長
監事	田村　和彦	㈱アグリコミュニケーションズ／代表取締役社長

（前ページより続く）
物を生産、取り扱っている時期に審査・認証機関が指定するタイミングで実施する。今まで審査が農閑期に行われることが多く、実際最盛期にどのような管理が行われているかチェック出来ていなかった。今回農産物の取り扱いの工程を始め、重要な生産工程を確り審査することが期待される。それから、ＪＧＡＰマークの使用が、ＪＧＡＰ認証農場の農産物の証として表示が出来るようになる。また、土壌診断が2.1版では努力項目であったがＪＧＡＰ青果物2010では、必須項目となり施肥計画が重要になる。ＪＧＡＰ認証農場の更なる経営改善に期待したい。

農家と消費者の新たな関係作りを目指す“地産マルシェ”

農業関連資材を中心に取り扱う大型専門店、ファームドゥ（株）（群馬県北群馬群吉岡町）は、農家と消費者の新しい関係づくりと、安全で新鮮な農作物の流通システム構築を目指している。同社岩井社長は生産から販売まで一貫して農家を支援し、消費者と顔の見える関係づくりと交流を通じ、安全・新鮮を届け、満足を提供することが夢であると積極的にチャレンジしている。

同社農業生産法人(有)ファームクラブは、農家の高齢化で使われなくなった農地を活用し、地域貢献を主とする「ブルーベリー観光園」「苗生産」「野菜生産」の３つの柱から成り立ち、社員も十数人がＪＧＡＰ指導員の資格を取得し、農場で農作業に汗を流しながらＪＧＡＰ認証取得に向け取り組んでいる。群馬県内中心に埼玉には道の駅の農業資材店、食の駅“農援'Ｓ”を展開している。また都内には、農家の野菜売り場“地産マルシェ”を９店舗開設し、群馬、埼玉、長野から新鮮な野菜を販売している。今後全国のＪＧＡＰ農場と連携し農産物をリレー出荷する計画である。年末には高速道路の某パーキングエリア内にも“地産マルシェ”を開設する予定である。全国のＪＧＡＰ認証農場にとって新たな力強い販売支援になる。

顔が見える・美味しいりんご作りを目指して

～岩木山りんご生産組合の勉強会

岩木山りんご生産組合は、組合員、準組合員合わせて33名、内ＪＧＡＰ団体認証は25農場が取得しているが、今年の目標は100農場である。100年以上続く津軽りんごの歴史とりんご園を守る使命をもち、自己責任の持てるりんご生産者の集団として、一リンゴ園の経営者として誇りを持ったりんご農家の集団を目指している。組合の基本目標は、生産者の自律である。

りんごの消費は45年前(1965年)に比べると約半分になっているという。消費が落ち込んでいるなか、青森では2008年りんごジュースの産地偽装が発覚し、今年は秋田県のりんごが混ざっていたとして「青森の正直」ブランドが失墜した。消費者の信用を回復するのは至難であるが、原点に立ち戻り、先日ＪＧＡＰの農場管理をベースに美味しいりんご作り、売れるりんご作りの勉強会を開催した。消費者のりんごを購入する時のポイントは鮮度、品質（美味しさ）である。如何に高糖度（14度以上）で日持ち良く作るか？弘前のリンゴ園で２年間に亘りエムシー・ファーティコム（旧播州ケミカル品：ダイヤアミノ）で栽培試験した。目的は追肥による着色具合、糖度、硬度、一ヶ月、半年後の褐変の状態の比較試験をした。一般的に青森では追肥は着色の遅れや日持ちが悪くなると考える生産者が多い。しかしながら肥料次第で好結果が出ている。そのデータを基に、肥培管理を見直すことを検討した。一日の作業が終わった夕方から９時過ぎまで熱心に皆で意見交換した。頑張っている生産者を応援したい。

猛暑の毎日が続いていますが、体調を崩されてはいませんか？熱帯夜対策として、暑くてもぬる湯に入り体温を少し上げるのがいいとＴＶでやっていたのを実践しています。湯上り後、しばらく経つと一度体温が下がるので、そのタイミングで寝床へ。そのままＴＶを見続けると、また体温が上がり汗をかくので、タイミングが鍵です。

編集局長：小田原次洋　アシスタント：助川尚子
電話：03-5802-2011/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp　URL http://www.mcagri.jp